



# 稲穂

小樽市立稲穂小学校  
学校だより No.12  
令和8年3月5日  
文責 校長 遠藤隆典

【学校の教育目標】  
りこうで たっしやで  
ほがらかな 稲穂の子

稲穂小WEB



## あたたかい学級で学ぶ楽しさを高めながら

校長 遠藤隆典

3学期も残りわずかとなりました。6年生の心に残る卒業式となるように準備が進められています。各学年で高めてきた力を発揮して笑顔で終わられるように全校皆で頑張っていきます。

現在、先生方に協力いただき全学級で校長の授業をさせていただいています。自分自身、算数授業の研究を続けてきたこともあり算数をさせていただいています。知的な楽しい算数の学びとなればと思っていますが、今イチなのはご容赦ください。授業をして感じるのは、各学級のあたたかい雰囲気です。だれもが安心して考えを出し合える、認め合えるあたたかい風土を担任の先生方と子どもたちが作り上げてきたことをうれしく思います。この土台があってこそ学びの充実があると感じています。これからも、全職員で「あたたかい学びの風土」を学校全体でつくれるように努力していきます。



## 「プラス思考」で自分を成長させていけるように!

3月2日は、今年度最後の全校朝会でした。1年間「話をしっかり聞く」ことに力を入れてきましたが、全学年が真剣な目を向け、話に反応しながら聞く素晴らしい姿でした。先生方と日々の意識してきたからこそその変容です。成長を感じるうれしい姿でした。

今回の全校朝会では、「プラス思考の大切さ」についてお話ししました。

何かうまくいかないことがあったとき、つい「できない」「もうダメだ」と思ってしまいそうになるのは、大人でも子どもでも同じです。しかし、物事の見方を少し変えて「ここまでできた」「次はこうしてみよう」と前向きに受けとめることで、チャレンジしようと思う心のエネルギーは大きく高まります。

1年間をふり返ると、子どもたちは、いろいろな場面でプラス思考で成長してきました。漢字がむずかしかった日、計算がわからなくてくやしかった日、友だちと意見がぶつかった日……。そのたびに「どうすればうまくいくかな?」と考えて、子どもたちは一歩ずつ前に進んできたはず。知らないうちにたくさんのプラス思考を使って成長してきました。もちろん、失敗や不安を“無理にポジティブに変える”ことはありません。大切なのは、「気持ちの切り替え」と「自分には伸びる力があると信じること」です。プラス思考は、挑戦する力、粘り強さ、そして自己肯定感の土台になります。

1年間の締めくくり、様々な取組がありますが、ぜひプラス思考でみんなで力を高め、笑顔で締めくくれたらと思っています。

ご家庭でも、もしお子さんが何かにつまずいていたら、「ここまでできたこと」「次に挑戦できること」に目を向ける言葉かけを、ぜひ意識してみてください。ご家族からの前向きな一言が、子どもにとって大きな励ましになります。

これからも、学校と家庭で同じ方向を向き、子どもたちの成長を支えていければと願っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 児童会いじめ防止ハッピープロジェクト「チャレンジいじめ防止川柳」

後期児童会の取組として、いじめ防止ハッピープロジェクトいじめ防止川柳の募集を行っていましたが、代表作品が決まりました。西陵中学校生徒会と連携してお互いの学校で意識を高めていくことがねらいです。児童生徒が自分たちで企画を考え実現させていくというのはとても有意義なことだと感じています。稲穂小ではチャレンジ企画としてクロームブックで作品募集を呼びかけたところたくさんの人が参加してくれました。学級で取り組んでくれたところもありました。

いじめは何気ない言葉やいじめだと思っていない言動がきっかけとなることも多いです。特に最近では、SNSでのメッセージがトラブルになっていることが多くあります。相手に送った自分の言葉・メッセージが相手にどんな印象を与えるのか、川柳を目にするたびに振り返り考えていく児童生徒が増えていくことがハッピープロジェクトの成功につながります。言葉への意識を高めていきましょう。

今回下記の5作品が代表作品となりました。児童会と西陵中生徒会のいじめ防止の連携として、お互いの学校で掲示していきます。

「思いやり 広げ開ける 笑顔の戸」 6年1組 小泉 紀歩さん  
「いじめゼロ 優しい言葉 聞きたいな」 6年1組 久保田 夢夏さん  
「何気ない その一言は いじめかも」 6年2組 相澤 壮亮さん  
「いじめなし プラスの言葉で ハッピーに」 5年1組 南 実咲さん  
「ありがとう 言える気持ちが いじめなし」 4年2組 宮澤 芽生さん

## キャリア教育 人の生き方・言葉に学び、自分の強みを生かして成長を！

稲穂小の特色ある教育活動にキャリア教育 DCT（ドリームズカムトゥルー）の取組があります。毎年、社会でご活躍されている方を講師に招き卒業を控えた6年生に人生でのチャレンジや仕事へ考え方など講話をしていただいています。どの講師のお話も仕事に向き合う真剣さと誇り、自分の強みを生かして挑戦されてきた姿など子どもたちの心に響くメッセージとなっていて、素晴らしい学びになっていると確信しています。

子どもたちが歩いていく社会は、変化が速く先を見通しづらい時代です。AIなどデジタル技術の進展や、価値観の多様化、国際社会とのつながりの深化など大きく変化している中で、一人一人に求められる力は単に知識量ではありません。「正しい情報を自分選択・判断し、自分の考えを持つこと」が非常に大切になります。

自分の好きなことに挑戦し続け、夢中になる経験、様々な経験を重ねながら、どの方も自分の強みを生かし、努力し続けていることが共通しています。

それぞれの講師の方の語り掛けてくれた姿・言葉が、子どもたちのこれからの生き方に力を与え、将来どんな社会の中でも、自分らしく生きていける力につながっていくことを願っています。



小樽協会病院  
黒田敬史 氏



おたる政寿司  
中村圭助 氏



デフリンピック代表  
木村亜美 氏



エスポラーダ北海道  
吉田順省 氏